令和８年度　第７回旭地域会議　会議録

■日　時　令和８年１０月８日（木）　午後７時００分～午後８時３０分
■場　所　旭支所２階　第１会議室
■出席者
＜委員１０名＞
伊藤和夫（会長）、鈴木雄也（副会長）、青木富美雄、安藤孝之、伊藤圭一、紀平純子、熊本ゆう子、成瀬一、成瀬初恵、森下正人
＜事務局＞
杉本憲彦（支所長）、児嶋勇吾（副支所長）、梅村祐子（担当長）、山岡千裕（主査）、平井一輝（主事）
＜傍聴人２名＞
■欠席者　後藤美咲、鈴木好美、西田又紀二、渡邉渚

１　開会

２　会長あいさつ

３　意見交換

（１）思ったことを話そう、これまでとこれから

４　支所長あいさつ

５　閉会

【内容】（要約）

１　開会

２　会長あいさつ

３　意見交換

（１）思ったことを話そう、これまでとこれから
委員同士で意見交換を実施した。

＜主な意見＞

【支え合いができる地域に】

・一つの目的に対して、皆でやっていく。

・ご近所付き合いを、住んでいる地域が離れている人同士でもできたらよい。
・人がいるからよい、少ないからだめということではない。数だけで測れない、人間関係や近所付き合いを含めて愛着を持てることがよいのではないか。

【地域の資源を生かしていく】
・人口を増やしていくのは難しい気がする。地域の資源を生かして、外からの人を呼び込んで関係人口を増やすのはどうか。
・外との交流が必要なのではないか。いろいろな分野で外の人と交流できる場所を作って、ここでしかできないことを体験してもらいたい。
・都市部との人材交流を進めて、若者の受け入れ先を作っておくのはどうか。人が集まれば、商業や学校も復活できるのではないか。
・農地、豊かな水等、他にはない地域の強みを活かさない手はない。

【住民主体のまちづくり】
・人口を増やすことが目的ではないと思う。人口が減る中で、役割などを地域の実情に合ったものに整理をしていく。
・やりたいことを後押しできる、一人一人を尊重できるまちでありたい。こんな仕事がしたい、ここに行ってみたい等が可能になるように、協力できるようになるといい。
・出ていく、という人が居ても尊重する。無理に残る、という訳ではなくお互いを理解して分かりあうことが大切なのではないか。
・子どもに、大人ができない、諦めている姿を見せたくない。
・外から戻ってきた時に感じたことは、自分が何に貢献しているのか、誰かに喜んでもらえているということが、直に感じられてよかった。
・地元の人が頑張っていない地域には人は来ないと思う。住んでいる人が頑張ることが大切なのではないか。やる気になることが大事。
・合併して行政が大きくなったことで、やれないこともある。これからを見据えて、行政でやるのではなく地域で仕組みを提案するというやり方もあるのではないか。

【地域会議の役割】
・集落ビジョンやまちづくり計画を確認すると、地域住民の向かっている方向は

大体同じ。それを具体的にする、可能にするために地域会議で後押しをしていけたらよい。
・地域の声を地域会議で持ち寄りながら繋げていく。
・地域会議から、真剣に地域のことを考えているところを見せることが必要ではないか。
・課題について、本質的に「どういうことを自分達が求めているのか」を議論して提案するのが地域会議の場ではないか。
・制度を精査して見える化したり、過去に提案があったものをもう一度見直す、掘り下げたりということをやってはどうか。

【農地】
・農ライフや移住などを通じた新規就農者もいる一方で、後継者がおらず田んぼをやめたいという人が多い。
・食料自給率の観点からは耕作を一定数確保していくことが必要。
・農地の問題は個人の問題だが、地域として考えてみてはどうか。

4　支所長あいさつ

5　閉会

―　午後 8 時 30 分　令和 8 年度第 7 回旭地域会議終了　―

以上